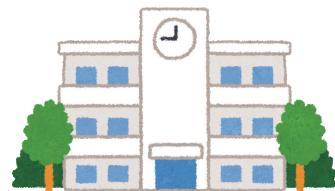


長久手市立東小学校



創立：1981年
 住所：〒480-1102 長久手市前熊前山174
 連絡先：TEL 0561-62-4353 FAX 0561-63-7593
 学級数：10 児童数：219人
 H P : <http://www.hm5.aitai.ne.jp/~nehigasi/>



はばたけ長久手の未来に 心育む伝統芸能と福祉交流

はじめに

本校は、全校児童が219人という小規模学校である。長久手市の東部にあり、愛・地球博記念公園に近く、自然に恵まれた地域である。保護者も本校の卒業生という児童が多いため、地域とのつながりが深く本校の教育活動への理解も深い。故に、伝統芸能の継承活動や福祉交流への協力を多方面から受けられる環境にある。こういった

地域交流活動を通して、「つながり」「関わり」を尊重し、人間性を育み、思いやりの心を育てたい。

昨年度からは、ユネスコスクールとしてESDの理念のもとに、これまでの活動を見直し、さまざまな活動に取り組んでいる。

実践内容①

「あいち・なごや子ども会議でのポスターセッション」



ねらい：活動を通してESDで育みたい力を育成し、紹介活動を通してESDの普及促進を図る。

平成26年10月26日(日)名古屋市熱田区にある国際会議場内白鳥ホールで、ESDあいち・なごや子ども会議と本校の取り組みを発表するポスターセッションに参加した。本校は、これまで長年に渡って児童会活動やクラブ活動でさまざまな地域と連携した活動に取り組んできた。昨年度から、ユネスコスクールとしての二本柱でもある、「伝統芸能」と「福祉交流」には特に力を入れてきた。発表児童は、児童会役員活動や、伝統芸能・手話クラブの経験があり、準備・練習・当日の参加についても大変意欲的に活動することができた。

本校の取り組みの一つ目「伝統芸能」については、詩舞や和太鼓の他に、地域の方に講師になっていただき指導を受け始めた「ザイ踊り」がある。発表に関する内容の取

材は、講師に直接インタビューをしたり、授業を見学したりして自分たちでまとめた。二つ目の「福祉交流」は、市で推進する「認知症サポーター講座」、「介助犬を知ろう講座」（県内唯一の施設である介助犬訓練センターから講師派遣）、「手話クラブの活動」「福祉交流会」（老人ホーム訪問）についてまとめた。

発表の際は、情報伝達のバリアフリー化を考慮し、出来る限り手話も使うことにした。

翌年、平成27年10月10日(日)には、愛知県緑化フェアが校区にある愛・地球博記念公園で開催される中、「愛知県ユネスコスクール交流会」が行われた。今年度の活動も含めた内容に改良し、ポスターセッション部門に参加した。



緊張の中、頑張ったポスターセッション

成果

ESDの育みたい力を二点向上させることができた。一点目はポスター作成でデータや情報の分析能力の向上、二点目は質疑応答能力と、当日の実践でコミュニケーション能力の向上を図ることができた。さらに、手話を使った試みによって、我々の目指す「生きた福祉」を実践できた。

実践内容②

「児童会活動校外交流行事『第5回福祉交流会』」

ねらい：高齢者との交流を通して、共生の大切さに気づき、自発的に活動する心を育む。

平成23年度から校区内にある小規模特別養護老人ホームとの交流会を開催している。利用者の中には百歳を迎える方や認知症の方もいて、毎年秋に本校の児童が訪問するのを楽しみにしてくれている。交流会には、高学年の有志児童約20名が参加する。児童たちは、訪問までに、休み時間を活用して高齢者の方々に喜んでもらえる歌や、一緒に楽しめるゲームを選び練習する。話し掛ける声の大きさや目線の位置などを、二つのチームで、高齢者役と

児童役に分かれて練習する中から見付け出す。今年で5回目だったが、1回目に披露した地域に伝わる昔話を創作した大型紙芝居をリバイバル発表した。参加児童の中には、低学年の頃に高学年の人たちが読み聞かせてくれたことを思い出し、よりよい作品にしようと練習に励んだ。



待ちに待った福祉交流会

成果

児童は、どうしても楽しんでもらうことを中心に考え出向く。しかし、高齢者から労われ、喜ばれたことで自分たちも楽しませてもらったことに気付く。まさに、共生に気付ける体験ができる行事となった。

実践内容③

「長久手に伝わる『ざい踊り』」

ねらい：地域の伝統芸能の素晴らしさを知り、継承していきたいという思いを高める。

長久手の東部にある一定の地域に、明治の初めごろから伝わる「ざい踊り」がある。夏祭りで5歳から12歳までの女の子が、棒の先に赤く染めた細長い房を束ねて付けた棒を持ち、先祖の供養のために踊る。児童の中には、地域の祭りに参加し、すでに踊りを習得している者もいる。本校は、平成26年度から継承活動を行っている方に指導していただくことができるようになった。地域のよいところ、残していきたい伝統文化を学習する3年生が、総合的な学習の時間に伝統芸能の一つとして学習している。

本来は、女子のものだが、男子も共に指導を受けている。

歌は1番から13番まであり、少しずつ振り付けが異なる。それを10時間で習得し、自分たちでざいを作成・修繕し、11月の学習発表会で、保護者や地域の人たちの前で披露している。



学習発表会で披露「ざい踊り」

成果

自分たちが暮らす地域の中の伝統を知り、真剣に練習に取り組むことができた。ざいの作成・体験・発表を通して、長久手のまちなに残る伝統芸能を大切に、次世代へつなげていこうという気持ちが芽生えた。

おわりに

平成27年度にユネスコスクールとして認定され、これまでのクラブや児童会だけの活動という枠を外し、学校全体で情報を共有すると共に、教職員全体がこれまでの取り組みを見つめ直すことができるきっかけとなった。ESDカレンダーや登録校との交流活動も行うことができた。本校の二本柱は、福祉と伝統だが、ESD活動は多岐にわ

たる。一部の児童の活動だけでなく、4年生は環境教育、5年生は福祉教育、6年生は国際交流に取り組んでいる。次に見えてきた課題は、既存の教育活動をいかにESDと結び付けてより発展した指導を行うかということである。と同時に、ESDに対する教職員の理解をさらに深められるような研修の必要性を感じている。